

ワクワク新聞 第139号

発行日：平成29年9月15日(金)
発行者：若林ひろき 品川区議会議員



各地で勉強してきました 視察日記・下

この夏8月は、10日静岡県袋井市、16日豊島区、17日神戸市、18日北区と、精力的に各地に伺い勉強しました。

「ミニユーニティバス」



この夏8月は、10日静岡県袋井市、16日豊島区、17日神戸市、18日北区と、精力的に各地に伺い勉強しました。

神戸市は、政令指定都市、面積552m²、人口150万人（品川区は22.8m²、38万人）と、巨大です。さすがに、全域でゴミバスを通すことはあります。この4月から、1万8千人の塩屋地区内を循環する形で運行が開始されました。この地区は、坂が多い上、道が狭いため、路線バスが走れない環境もあります。従つて、バスといつてもワンボックスタイプのタクシーが使用されています。品川区で導入されない一番の理由は、赤字事業になるのですが、ここでは、運営するタクシー会社

神戸市は、政令指定都市、面積552m²、人口150万人（品川区は22.8m²、38万人）と、巨大です。さすがに、全域でゴミバスを通すことはあります。この4月から、1万8千人の塩屋地区内を循環する形で運行が開始されました。この地区は、坂が多い上、道が狭いため、路線バスが走れない環境もあります。従つて、バスといつてもワンボックスタイプのタクシーが使用されています。品川区で導入されない一番の理由は、赤字事業になるのですが、ここでは、運営するタクシー会社

神戸市の特徴は、行政が事業を行なうのではなく、住民主体で考え、企画・実行するような仕組みが整えられていることです。「神戸市地区計画及びまちづくり協定等に関する条例」は、地域の発意によるまちづくりを、行政が支援しようとするもので、「ミニバスも『塩屋まちづくり協議会』で検討し、『塩屋コミュニティバスを走らせる会』を発足、アンケート調査や運行業者の選定など、行政がバックアップし

設置された研究会では、連携推進の課題として、地域との関わりが少ない一人暮らし高齢者が増加傾向で、認知症を合併する人も多く、サービスにつながらない高齢者の緊急時対応に様々な困難が伴つていていることや経管栄養など医療依存度の高い要介護者の在宅療養継続のため、医療介護の連携が重要なこと。また、医療処置が必要となつた一人暮らし高齢者の退院にあたり、安心・安全な在

ます。何事でもさかんな時が過ぎれば必ず老いて衰えます。これは私の言う道に外れた行為だからです。道に外れたを行いをしていざと早く終わりが来ます。(つづく)

また、当初から市街地のミニバスには、赤字補てんのための補助金は出さない、という市方針を伝えることによって、行政任せにせず、自分たちのバスという意識を持っていただき、存続させるために積極的に利用する工夫を地域が考えています。

事業では、行政の担当窓口を明確にしたことで、医療側の信頼感が得られ、両者の連携がスムーズになりました。誰に話したらよいか不明確なままでは、忙しい先生方はそれだけでストレスが溜まってしまいますね。袋井市でもそうでしたが、ここで保健師さんの存在が大きいと感じます。医療と介護が話し合いをして、「ことば」が違いますので、なかなか理解しづらい実態があつたそうですが、保健師が間に立ち、両者のことばを「翻訳」することで、話しが通じるようになります。この保健師さんは、長年高齢福祉に携わっておられ、介護・福祉の大課題「連携」がとられるようになり、正式な会議以外に、有志が集まり任意の連携研修会が開催されるなど、一つ突破が開かれることで、良い循環が始まったよう

善者は果なる巳、敢て以て強を取らず。課にして矜ること勿かれ、果にして伐ること勿かれ。課にして驕ること勿かれ。課にして己むを得ざれ。物壯んなれば即ち老ゆ。是を不道と謂う。不道は早く已む。兵力によつて天下に強さを見せてはなりません。軍隊が陣をしいた後には（土地も荒れ果てて）野いばらだけが生い茂つてゐるではありませんか。大きな戦のあとには、必ず凶作の年がやつてきます。

本当によく戦う人は果敢に戦うだけで、国を強大にしようとはしません。勝利を自慢してはなりません。勝つてもおごりません。勝つてはなりません。ぶつてはなりません、やむを得ず戦つたということを忘れてはなりません。

「老子・莊子」(野村茂夫／角川ソフィア文庫)その5

